

告示	番号	28	血液疾患
	疾病名	後天性赤芽球癆	

後天性赤芽球癆

こうてんせいせきがぎゅうろう

概念・定義

赤芽球癆は正球性正色素性貧血と網赤血球の著減および骨髓赤芽球の著減を特徴とする造血器疾患である。再生不良性貧血が汎血球減少を特徴とするのに対し、赤芽球癆では選択的に赤血球系のみが減少し、重症の貧血を呈する。通常、白血球数と血小板数は正常に保たれる。先天性と後天性があり、先天性赤芽球癆として Diamond-Blackfan 貧血 (DBA) がある。後天性は臨床経過から急性と慢性に区分される。後天性慢性赤芽球癆は病因不明の特発性と基礎疾患を有する続発性に分類される。

症状

顔色不良、息切れ、動悸、めまい、易疲労感、頭痛などの症状がみられる。DBA の約 40% でみられる種々の奇形や発育障害は通常認められない

治療

(1) 急性赤芽球癆の治療

赤芽球癆の診断が得られたら全ての被疑薬を中止する。中止が困難な薬剤は作用機序の異なる他の薬剤への変更を試みる。TEC は通常 1~2 か月以内に自然に回復するので、治療の原則は慎重に経過を観察することである。貧血が高度な場合には、赤血球輸血を考慮する。ヒトパルボウイルス B19 感染症の場合も対症的に経過を観察する。薬剤性や感染性の場合、通常 1~3 週間で改善傾向が認められる。

(2) 慢性赤芽球癆の治療

貧血が高度で日常生活が障害されている場合には赤血球輸血を考慮する。赤芽球癆の診断から約 1 か月間の経過観察を行っても貧血が自然軽快しない場合や、基礎疾患の治療によって貧血が改善しない場合には免疫抑制薬の使用を考慮する

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/9_2_2.html